

古墳の構築

～梅替古墳はどのように造られたか～ 調査課 大本直人

考古学コラム「きずな」No. 10

平成 27 年 7 月 1 日

岐阜県文化財保護センター

小学校で使っていた教科書を思い出してみましよう。日本一の大きさを誇る大仙古墳（大阪府）の写真の隣には、古墳を造るためにたくさんの人々が大きな石を運んだり、土を運んだり、埴輪を並べたりする想像図が描かれていました。古墳を造るには、本当にそのような作業が行われていたのでしょうか。

平成 25 年度に梅替古墳（坂祝町）を調査した結果、当時の人々がどのような順序で古墳を造ったのかが明らかになりました。

①木を伐採し、表土を取り除くと、山の上方から流れてきた土（流土）が古墳を覆っていました。



②流土を取り除くと、古墳全体が石で覆われていました。これを「葺石」といいます。



③古墳頂部を削っていくと、天井に架けられた石（天井石）が見え、石室があらわれました。



④石室内にたまった土を取り除くと、石を積み上げてつくられた壁が見つかりました。



⑤古墳の半分だけを解体して、断面を観察すると、色・かたさの異なる土がいくつも重ねられていました。



⑥石室につまめた石を順番に取り外していくと、最下段の石は石室内部が直線になるように並べられていました。また、石室の床はかたく踏みしめられていました。



⑦最下段の石と床を取り除くと、石室の形に合わせて掘られた穴が見つかりました。



この調査から梅替古墳は次の順序でつくられたと考えられます。

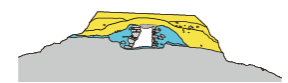
（工程 1）

- ・石室の形に穴を掘る。
- ・石室の基礎となる石を並べる。
- ・石を積み上げながら、壁を支える盛土をする。



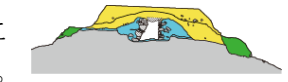
（工程 2）

- ・盛土を広げて古墳の形にする。
- ・天井石を架ける。
- ・天井を土で覆う。



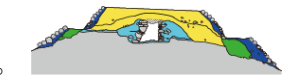
（工程 3）

- ・高くなった古墳の周囲に土を盛り、下の段をつくる。



（工程 4）

- ・古墳の表面に葺石を敷く。



（工程 5）

- ・下の段の上面を整地する。



被葬者のために様々な工程を経て、多くの人たちが関わりながら造られる古墳。古墳の造り方が明らかになると、当時の人々の思いが伝わってきませんか。



梅替古墳の墳丘断面図